

中3数学D 復習テスト解答 2学期-6

1.

- (1) $f(x)$ を $x-1, x-2, x-3$ で割った余りがそれぞれ 4, 7, 14 であるから、剰余定理より、
 $f(1)=\boxed{4}, f(2)=7, f(3)=14$

- (2) したがって、2次式 $f(x)$ を

$$f(x)=ax^2+bx+c$$

とおくと、

$$\therefore \begin{cases} a+b+c=4 \\ 4a+2b+c=7 \\ 9a+3b+c=14 \end{cases}$$

が成り立つ。

これを解くと $a=2, b=-3, c=5$ であるから、

$$f(x)=\boxed{2x^2-3x+5}$$

2.

- (1) $f(1)=0, f(2)=0, f(3)=0$

なので、因数定理より、3次式 $f(x)$ は
 $(x-1)(x-2)(x-3)$

で割り切れる。

次数より商は定数であるから、これを q とおくと、

$$f(x)=q(x-1)(x-2)(x-3)$$

この両辺に $x=4$ を代入すると、 $f(4)=1$ より、

$$1=q \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1 \quad \therefore q=\frac{1}{6}$$

したがって、

$$f(x)=\frac{1}{6}(x-1)(x-2)(x-3)$$

であり、 $f(5)=\frac{1}{6} \cdot 4 \cdot 3 \cdot 2=\boxed{4}$.

- (2) [方針 I]

3次式 $f(x)$ を

$$f(x)=ax^3+bx^2+cx+d$$

とおくと、因数定理より

$f(1)=1, f(2)=32, f(3)=243, f(4)=1024$ なので、

$$\begin{cases} a+b+c+d=1 \\ 8a+4b+2c+d=32 \\ 27a+9b+3c+d=243 \\ 64a+16b+4c+d=1024 \end{cases}$$

が成り立つ。これを解いて

$$a=65, b=-300, c=476, d=-240$$

したがって、

$$f(x)=65x^3-300x^2+476x-240$$

であり、

$$f(5)=8125-7500+2380-240=\boxed{2765}$$

[方針 II]

5次式

$$x^5-f(x)$$

を $g(x)$ とおくと、

$$f(1)=1^5, f(2)=2^5, f(3)=3^5, f(4)=4^5$$

なので、

$$g(1)=0, g(2)=0, g(3)=0, g(4)=0$$

であるから、5次式 $g(x)$ は4次式

$$(x-1)(x-2)(x-3)(x-4)$$

で割り切れる。

次数より商は1次式であるから、これを

$$ax+b$$

とおくと、

$$x^5-\underbrace{f(x)}_{3\text{次式}}$$

$$=(x-1)(x-2)(x-3)(x-4)(ax+b)$$

まず、 x^5 の係数を比べて $a=1$ と分かり、
 次に x^4 の係数を比べると、

$$0=-1-2-3-4+b \quad \therefore b=10$$

と分かる。

したがって、

$$x^5-f(x)$$

$$=(x-1)(x-2)(x-3)(x-4)(x+10)$$

両辺に $x=5$ を代入して、

$$5^5-f(5)=4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1 \cdot 15$$

$$\therefore f(5)=3125-360=\boxed{2765}$$